

思いやりで社会をかえる

< STOP!! 飲酒運転 > 講演会

2月20日、< STOP!! 飲酒運転 > 講演会が田川青少年文化ホールで開催され、約230人が参加しました。

この講演会では、平成23年2月に糟屋郡粕屋町で発生した飲酒運転事故で、長男の寛大^{かんた}さんを亡くされたNPO法人はあとスペース代表の山本美也子^{やまもと みよこ}さんが講師を務めました。

山本さんは、突然の事故で子どもを亡くした悲しみや命の大切さについて講演し、参加者たちは山本さんの話に熱心に耳を傾け、涙を浮かべながら話を聞く姿なども見られました。

山本さんは「運転する際には、思いやりを持ってハンドルを握ることが大切です。田川の地からも飲酒運転撲滅の声をたくさん上げてほしい」と力強く訴えました。



▲「飲酒運転ゼロの花を咲かせたい」と訴える山本さん



▲芯や皮、ヘタなどに豊富な栄養があると説明する吉田さん

生ごみを栄養に、おいしい野菜を育てよう

大藪小で生ごみ堆肥化の特別授業

2月21日、大藪小学校で、吉田俊道^{よしだ としみち}さん（NPO法人大地といのちの会代表）を講師に招き、3・4年生児童100人が生ごみを堆肥にする方法を学びました。

児童たちは、調理くずや食べ残しを使っておいしい野菜づくりを広めている吉田さんの説明に興味津々。生ごみを堆肥にするために野菜くずなどをちぎったり、足で踏んだりする作業には大きな歓声を上げながら取り組みました。

3年生の堀越琴羽^{ほりこし とは}さんは「最初はにおいが気になったけど楽しかった。これからはむやみに生ごみを捨てないようにしたい」と笑顔で話しました。

なお、今後は、この堆肥を利用して野菜を育てる予定です。

3月11日を忘れないためにも

大震災に備えた救出・救助訓練を実施

3月8日、田川市石炭・歴史博物館と田川地区急患センター一帯で、多数傷病者事故救出訓練が実施されました。

この訓練は、震度5強の地震により、石炭・歴史博物館で建物被害や火災が発生、多数の負傷者が出たという想定。田川地区消防本部や田川警察署、田川医師会・田川看護学校、田川保健福祉事務所、田川市消防団、田川市郡の自治体、添田町婦人防火クラブが、それぞれの役割などを確認し、救出や避難誘導などの訓練に連携しながら取り組みました。

田川地区消防本部の壽浦一成^{すうら かずなり}消防長は「終始規律が取れて、非常に良い訓練だった。今後も連携を強化し、効果的で実行力のある防災体制を構築しましょう」と語りました。



▲がれきに見立てた鉄パイプを切断する消防隊員